

開催告知のお願い

初春の候、貴職におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。下記につきまして、各関係機関の方々に、告知をお願いしたく存じます。

記

子どもが変わる！地域が変わる！社会に開かれた教育課程の実現に向けて
～2月7日（金）初等教育研究発表会にて、小学生と大人による公開シンポジウム開催～

10年ぶりに小学校学習指導要領が改訂され、本年度から全国の小学校で全面実施となる。改訂における重要なキーワードの一つに「社会に開かれた新しい教育過程」が挙げられるが、現在、その理念に基づいた有効な実践はあまり見受けられない。

香川大学教育学部附属高松小学校は、平成29年度より3年間の文部科学省教育過程特例指定を受け、「分かち合い、共に未来を創造する子どもの育成」をテーマに、2領域カリキュラムの実践・研究を進めてきた。その視点の一つとして、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに養う「社会に開かれた教育課程」の実現が強く求められていると考えている。

本実践は、学校と地域社会の関係性を再構築し、これからの時代を見据えた新たな教育課程のかたちを提案しようとするものである。学校（子ども）と地域（大人）とが相互に関わり、互いによりよい価値を求めていく中で、子どもが変わり、地域が変わるといった実感、子どもと大人の本音の語りを通して伝えたい。

- ・開催日時 令和2年2月7日（金）12：40～13：25
- ・開催場所 香川大学教育学部附属高松小学校 第一体育館（入場無料）
- ・シンポジウム登壇者 辻井憲治様（株式会社フソウリブテック代表取締役社長）
石床 渉様（一般社団法人小豆島観光協会事務局長）
月見和史様（月見学道学長）
附属高松小学校赤6組の子どもたち（1年生～6年生、34人）
- ・コーディネーター 人見訓嘉様（コピーライター/有限会社 CONERI）

+++++

○実践・研究の概略（別紙にて）

本実践では、小学校1年生から6年生までの34人の子どもたちが、学校という枠組みを飛び越え、一般企業や事業所、個人経営者など、様々な立場の大人たちの世界に参画し、商品開発や観光パンフレットの作成、新しい事業形態の提案など、子どもの発想を生かしたアイデアの発信に努めてきた。活動の初期の段階では大人に認められることに躍起になっていた子どもたちも、様々な大人の熱量に触れることで、自分たちの活動が、社会の思いや願いも取り込みながら進んでいくものであることに気付いていった。

「前はいろいろな人と関わるのが苦手だったけど好きになった。(2年生)」「自分の案が採用されなかったけど、チームとして前進できた喜びがあった。挑戦できたことに価値があった。(4年生)」「大人の人が教えてくれた『言わなきゃ損』という言葉が忘れられない。本当にそうだと思う。(6年生)」など、社会というリアルな文脈を経験したからこそその学びがあちこちで生まれている。

2月7日(金)の公開シンポジウムでは、こうした地域に参画した子どもたちの声に加え、本校の教育理念に賛同し、これまで連携・協働してきた地域の大人たちの本音も発信される。“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を学校と共有し、共に教育活動を創り上げてきた「教師ではない大人たち」が語る言葉にこそ、これからの新しい教育の在り方のヒントが詰まっている。全国でも例を見ない、学校と地域、小学生と大人による公開シンポジウムをぜひご覧いただきたい。この取り組みが、今後の学校教育を考える上での一つのモデルになると考えている。

【問い合わせ先】

香川大学教育学部附属高松小学校 教諭 橘 慎二郎
TEL : 087-861-7108